

編集後記

編集委員／パナソニック株式会社

春井 正徳

編集委員の春井です。協会にあるいろいろな委員会のメンバーの顔が見えない、というご指摘を以前からいただいています。JAS ジャーナルの編集委員は毎号ジャーナルに氏名が公開されて、過去の委員の名簿も協会のウェブサイトに掲載されていますし、ジャーナルに記事を書く機会も多いのですが、今号から編集後記という形で委員から読者の皆様への発信をしていこうということになり、私がトップバッターのお役目を仰せつかりました。

まずは自己紹介から。1983年に当時の松下電器産業(株)に入社し、前年に発売されたCDプレーヤーの1号機が工場のラインで「流れている」と言っているのか「滞っている」と言うべきなのか、大変な状況のCDプレーヤー開発部門に配属になりました。中学生時代からオーディオファン(マニアとまでは言えない)で、入社試験の面接で「オーディオ関係の仕事がしたい」と夢と希望を語っていたので、希望通りの配属でした。CDプレーヤー用のIC/LSIの開発を始め、以降30年近くCDプレーヤー/デジタルオーディオ関連のシステム開発の仕事をさせていただいたあと、最近では製品環境法令という文科系のスタッフ業務を担当していて、英語、スペイン語は言うに及ばず、アラビア語から昨日はモンテネグロ語と、日々世界各国の言語と格闘しています。入社当時の上司に「オーディオ協会くらい入っとけ!」と言われて入会して、35年間近く個人会員でもあります。

入社したての頃は中島平太郎さんが書かれた『コンパクトディスク読本』が頼りでした。オレンジフォーラムからCD's21ソリューションズの流れでその中島さんに初めてお会いしてお話してきたときは、柄にもなく震えるくらい感動したのを覚えています。CD's21ソリューションズではソニーOBとなられていた井橋さんにもたいへんお世話になりました。CDのフォーマットの中でももう少し新しいことを楽しむことができるように考えていたのですが、実現に至らず残念です。中島さんは昨年12月に、井橋さんもこの3月にお亡くなりになられ、時の流れを感じずにはいられません。エジソン以来としても百数十年とまだまだ短いオーディオの歴史の中で二人の残された偉大な業績に敬意を表し、心からご冥福をお祈りしたいと思います。(合掌)